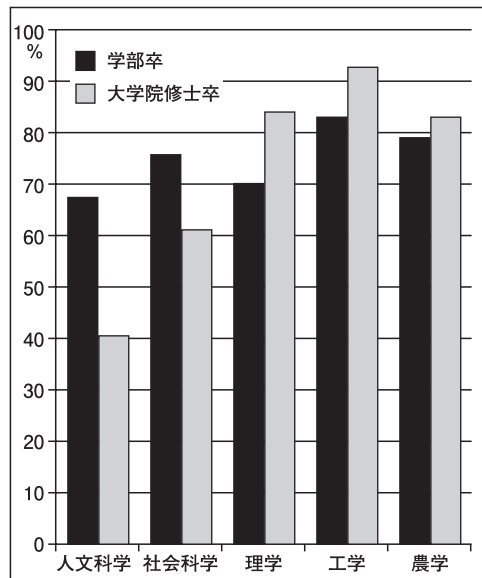


資料2 専門分野別就職率



注①ともに2013年度学校基本調査より。
 ②算式は、正規就職者／(卒業者数－進学者)。
 ③進学は学部卒の場合大学院、修士課程は博士課程。
 ④正規就職は派遣、契約社員などを除く就職者。他に一時的な就労(アルバイト)、進学も就職もしない者などがある。

進学率が低く、今後の社会のグローバル化を考えたら、他の先進国に太刀打ちできないという危機感が理由としてあった。大学院重点化による定員増によって、大学院入試のレベルは必然的に低下した。それは東大をはじめとする国立大でも同様で、それまでなら東大大学院に入学できないような学生でも入学できるようになった。

大学院の中には、志願者が定員に満たない状況が続いたことから、入試はほとんどフリーパスで、志願者集めに奔走する大学院もあるという。このような状況は、「学歴ロンダリング」などの問題も生み出した。就活においては最終学歴を記入するわけだが、先ほどの東大大学院の例のように、学部卒となった大学よりも、偏差値的に上位の大学院を出身校とすることによって、就活で有利に運ぶことができるようになり、新聞などでも報道された。ただ、この学歴ロンダリングも企業には広く知れわたり、最近では、最終学歴だけでなく、大学院での研究成果も問われるようになってきているという。

大学院重点化によって大学院生が大幅に増加。高学歴社会を迎えて、大学院進学は大学卒業後の重要な選択肢になっている。そのためか、日本の大学院に関する情報が、さまざまに飛び交っているが、その多くが「高学歴ワーキングプア」「博士ホームレス」など、否定的なとらえ方をしているものが多い。

一昔前の大学院といえば、向学心にあふれ、研究を極めたいという学生が進学するものというイメージがあったが、近年は、大学(学部)卒での就活に失敗して、緊急避難的に大学院に進学する学生もいるという。なぜ、このような状況になったのだろうか。

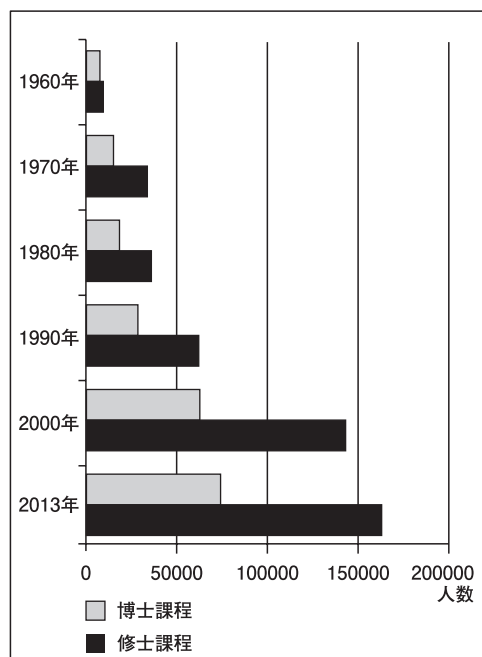
資料1は、日本の大学院生数の推移を表したものである。大学院生数は1960年から着実に増えてきたが、1990年代を境に飛躍的に伸びている。それは、1991年の大学審議会において、大学院生数を10万人から10年間で2倍するという計画が立てられたことによる。いわゆる「大学院重点化」である。そこには、欧米に比べて大学院

特別レポート 課題が多い文系の大学院進学

学部より就職率が低い文系大学院の現状

「学歴ロンダリング」や「高学歴ワーキングプア」など、とかくマイナーな印象で語られること多い文系大学院。学部卒での就活に失敗して、緊急避難的に大学院に進むケースも見られるが、果たして、その選択は正しいのか。苦境に立つ文系大学院について現状と問題点を探ってみた。

資料1 大学院生の急増



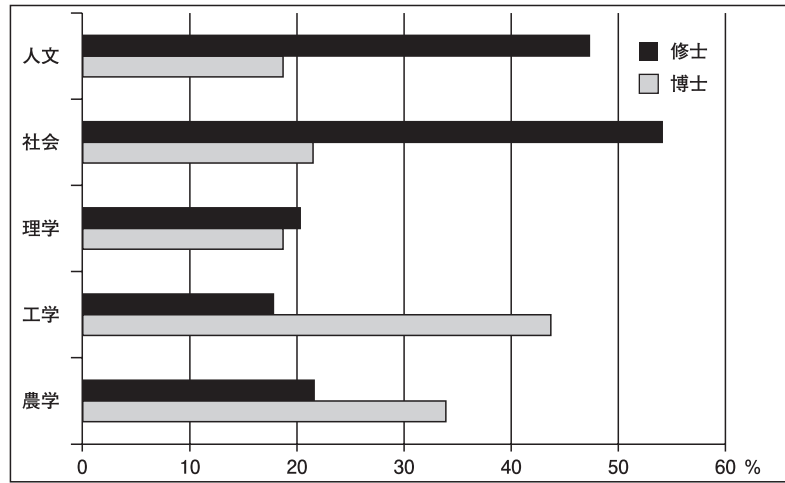
注①学校基本調査より集計、②2000年からの専門職学位は除く

大学院重点化によって大学院生が大幅に増加。高学歴社会を迎えて、大学院進学は大学卒業後の重要な選択肢になっている。そのためか、日本の大学院に関する情報が、さまざまに飛び交っているが、その多くが「高学歴ワーキングプア」「博士ホームレス」など、否定的なとらえ方をしているものが多い。

一昔前の大学院といえば、向学心にあふれ、研究を極めたいという学生が進学するものというイメージがあったが、近年は、大学(学部)卒での就活に失敗して、緊急避難的に大学院に進学する学生もいるという。なぜ、このような状況になったのだろうか。

資料1は、日本の大学院生数の推移を表したものである。大学院生数は1960年から着実に増えてきたが、1990年代を境に飛躍的に伸びている。それは、1991年の大学審議会において、大学院生数を10万人から10年間で2倍するという計画が立てられたことによる。いわゆる「大学院重点化」である。そこには、欧米に比べて大学院

資料4 系統別他大学出身者の占める割合



注 ①学校基本調査 2009年度より。②入学者から自大学出身者を除いた数

この学部と大学院がうまく連結すること、実践的グローバル人材の育成を目指すという。経済学部長でもある薄井和夫研究科長は、「文系大学院の展望を語るべき、グローバル人材の育成がキーワードになります。ただ今までは語学や国際文化交流など人文科学系が目立ちましたが、これからは経済学など社会科学系の人材が求められるようになるでしょう」と

海外企業の経営者には修士や博士が一般的になっており、また国際機関での採用も修士以上になっている。日本国内でも国家公務員総合職ではTOEICの成績が重視されるようになり、若手総合職の海外の大学院留学も一般的だ。また地方自治体や海外展開を目指す地元企業でもグローバル人材へのニーズは急速に高まっており、それには社会科学系、特に経済や経営の専門知識が欠かせない。「本学では、そのような現実を踏まえて、学部から大学院修士課程への連結を意図して、学部のグローバル・タレント・プログラムと、修士課程のダブル・ダイグリー・コースを作ったのです。成績が優秀であれば、学部教育を3年で早期卒業できるという制度も導入し、2年の修士課程と合わせて、5年間の修士課程を可能にしました。現在は1人ですが、将来はもっと増えるでしょう」と話す。

大学院の状況を知るにつれ、就職に失敗した、昔に比べて進学しやすくなったという安易な理由ではなく、大学院進学目的を明確にする必要性を感じる。特に、文系の大学院については、大学院の方が就職が厳しい状況なので、しっかりと目的意識を持ち、その進路設計に合った大学院進学を考えさせたいものである。

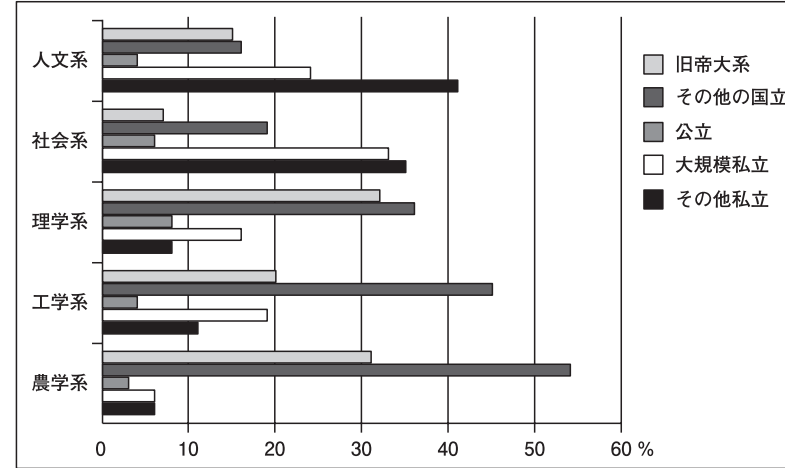
が注目されている。この研究科は、これまで、社会人の修士課程、博士課程教育を行う大学院として知られ、修士課程では、定員30名のうち、社会人が20名、残りの10名がほぼ留学生だった。しかし、近年、これに加えて、新卒の修士も積極的に受け入れ

る方針を打ち出している。その理由は、今年から経済学部の国際プログラム枠で導入されるグローバル・タレント・プログラムをふまえ、2013年から修士課程において、タイの大学とのダブル・ダイグリー・コースが設けられたことによる。

話す。海外企業の経営者には修士や博士が一般的になっており、また国際機関での採用も修士以上になっている。日本国内でも国家公務員総合職ではTOEICの成績が重視されるようになり、若手総合職の海外の大学院留学も一般的だ。また地方自治体や海外展開を目指す地元企業でもグローバル人材へのニーズは急速に高まっており、それには社会科学系、特に経済や経営の専門知識が欠かせない。「本学では、そのような現実を踏まえて、学部から大学院修士課程への連結を意図して、学部のグローバル・タレント・プログラムと、修士課程のダブル・ダイグリー・コースを作ったのです。成績が優秀であれば、学部教育を3年で早期卒業できるという制度も導入し、2年の修士課程と合わせて、5年間の修士課程を可能にしました。現在は1人ですが、将来はもっと増えるでしょう」と話す。

海外の大学とのダブル・ダイグリーも、前半1年をタイのチュラロンコン大学での英語の授業、後半の1年は埼玉大で修士論文に取り組む。修士の学位をダブルで取れば、国際ビジネスでも通用する。埼玉大の学部と大学院を連結した取り組みは、大学院進学を考える際に注目すべき視点であると言えるであろう。

資料3 分野別・大学別の修士数の割合



注 ①2008年度学校基本調査より。②大規模私立とは入学定員2500人以上の大学

では、どのような文系大学院が就職で苦戦している状況がきびしい状況

文系大学院の主体が私立大であるのに対し、理系大学院は国立大が中心であることがわかる。つまり、文系大学院の状況の厳しさは、私立大の厳しさということもできるのだ。また資料4は入学者のうち他大学出身者が占める割合を表したもののだが、理系に比べ、文系

埼玉大の学部と大学院を連結した試み

率において、理工系有利・文系不利の格差が拡大する理由ではない。1990年当時の大学院の系統別割合は、人文・社会学が18%に対して、理工系が60%を占め、圧倒的に理工系が多かった。ところが10年後の2003年に

は、大学院重点化の影響もあり、人文・社会学が22.4%を占めるようになり、この人文・社会学の大学院卒の増加が就職状況の悪化に結びついたと推測できる。ただし、2005年以降は、

資料3「分野別・大学別の修士数の割合」をみると、人文・社会学と理学・工学・農学系とでは、大学設置者や大学院の学

の修士課程においては、他大学出身者の占める割合がかなり高くなっている。つまり、文系の大学院入学は、かなり流動的になっている。